

松原市文化財報告 第24冊

丹南遺跡

松原市丹南4丁目地内における
店舗建設工事に伴う丹南遺跡 E8－4－62 発掘調査報告書

令和7(2025)年5月

松原市教育委員会

例 言

1. 本書は、松原市教育委員会が事業者より依頼を受け、令和6年度（2024）に実施した丹南遺跡の発掘調査報告書である。松原市教育委員会における調査番号の呼称は、E8-4-62である。
2. 本調査は、店舗建設工事に伴って実施した。なお、発掘調査・整理事業にかかる費用は事業者が負担した。
3. 発掘調査・整理事業ならびに本書の執筆・編集は、檜木規秀が担当した。
4. 本書で用いた平面座標値は、全て世界測地系（2011成果）による平面直角座標系第Ⅵ系の数値で、m単位で表記した。また、方位は座標北を使用した。なお、水準は東京湾平均海面高（T.P.）を基準とした（例：H=10.00m）。
5. 発掘した遺構は、検出順にアラビア数字で通し番号を付し、その後ろに遺構の種類を文字で付して、遺構台帳を作成した（例：S001土坑）。なお、本書では、紙幅の都合上「S」記号、2～3桁目の「0」を省略した（例：1土坑）。
6. 地層の土色は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖 2016年版』（農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いて目視により比定した。
7. 各図面は、適宜縮尺を変えており、図ごとにスケールバーを掲載し、キャプションに縮尺を表示した。
8. 出土遺物実測図の縮尺は1/4・1/6とした。なお、出土遺物写真の縮尺は任意である。
9. 遺構写真の撮影は檜木が行い、出土遺物写真の撮影は株式会社島田組が行った。
10. 調査の実施にあたり、事業者及び関係者の皆様にご協力を得た。記して謝意を表したい。
11. 表紙の画像は、国土地理院が作成した「基盤地図情報数値標高モデル（5mメッシュ）」のデータをもとにQGISで作成した。
12. 発掘調査の掘削・測量、遺構図・出土遺物の整理事業は株式会社島田組が実施した。
13. 本書の著作権は、図2の背景画像を除き松原市教育委員会に帰属する。また、この画像を除き「クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際 ライセンス（<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>）」に基づき、出典の表示を条件として自由な二次利用を許諾する。
14. 本書の作成にあたり、下記の文献を参考にした。
佐藤隆 2019「難波地域における7世紀の土器様相」『飛鳥時代の土器編年再考』奈良文化財研究所・歴史土器研究会
15. 調査に関わる出土遺物・図面・写真等の記録類は松原市教育委員会が保管している。

目 次

1. 調査に至る経緯と経過	1
2. 位置と環境ならびに既往の調査	1
3. 基本層序	1
4. 発掘調査結果	2
5. 総括	4

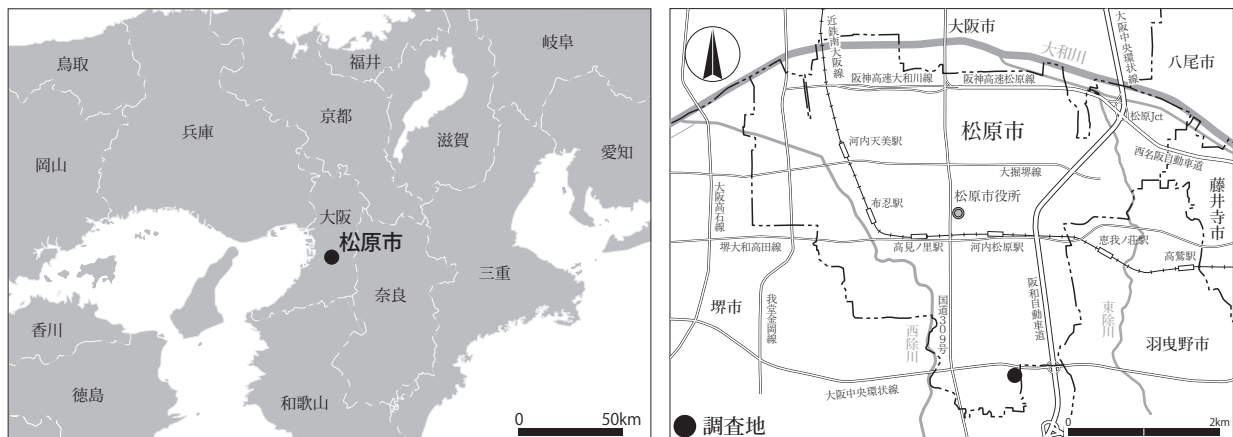


図1 発掘調査位置図

1. 調査に至る経緯と経過

本調査は、事業者により、松原市丹南4丁目175番1、175番3の一部で店舗建設工事が計画されたことによる。店舗・浄化槽・擁壁・広告塔を対象に確認調査（E8-4-59）を実施した結果、一部で古代の遺構・遺物を確認した。

松原市教育委員会は事業者と確認された埋蔵文化財について協議を行い、31㎡の記録保存調査を実施することとなった。調査は令和6年（2024）9月9日より着手し、重機掘削・遺構検出・遺構掘削・写真撮影・実測・遺物取り上げ作業を行い、令和6年9月18日付けで、現地調査を終了した。引き続き整理作業を開始し、令和7年（2025）5月31日付けで本報告書を刊行し、全ての作業を終了した。

なお、本調査では、平面図は光波測距機で作成し、断面図は写真測量ならびに光波測距機で作成した。また、写真撮影は、Canon社製のフルサイズの一眼レフカメラ（EOS 6D）を使用し、RAW・TIFF・JPEG形式でデータを保存している。

2. 位置と環境ならびに既往の調査

松原市は大阪府のほぼ中央に位置する面積16.6 km² 人口116,061人（令和7年2月時点）の都市である。

市域の東側には、羽曳野丘陵からのびる瓜破台地、西側には陶器山丘陵からのびる泉北台地があり、その間には沖積地が広がる。市域の北には宝永元年（1704）に付け替えられた大和川が西流し、瓜破台地の裾を東除川、泉北台地の裾を西除川が北流する。

丹南遺跡は縄文時代～近世の集落跡・官衙跡・生産遺跡等で、松原市丹南2～5丁目、岡4・6丁目、立部5丁目に所在する。日下雅義氏の地形分類図（『松原市史』第1巻所収）では中位段丘上に位置する。調査地周辺の現在の標高は約36.5～37.5mである。

調査地は、律令制下では河内国丹比郡に属する。11世紀後半には郡の分割により丹南郡に属し、江戸時代には丹南郡丹南村となる。

丹南遺跡では、これまでの調査で、主に飛鳥時代後期～奈良時代、平安時代後期～室町時代、江戸時代の遺構・遺物が確認されている。

調査地近隣の過去の調査は、南側のE8-4-37（調査面積：1,823㎡）で、7世紀後半～8世紀前半の大型掘立柱建物10棟以上、総柱建物2棟が確認されている。建物が整然と棟を揃えることから、在地有力者の

屋敷または官衙と考えられている（未報告）。その調査に隣接するE8-4-47（調査面積：100㎡）でも、同時期の遺構の広がりが確認されている（松原市教育委員会 2019）。また、やや南側に離れるが、E9-2-18（調査面積：700㎡）でも奈良時代の総柱建物が見つかる（未報告）。なお、西側のE8-4-27（調査面積：107㎡）では、鎌倉時代の集落が確認されている。鉄滓が出土した土坑もあり、鋳造に関連する遺構が所在する可能性がある（未報告）。

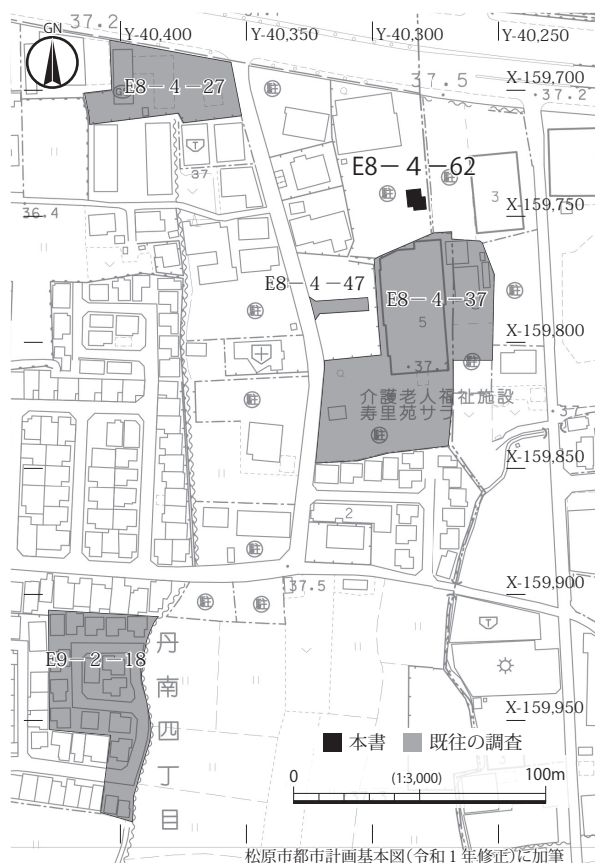


図2 発掘調査区・既往の調査地位置図 1：3,000

3. 基本層序

基本層序は、盛土、耕土、地山の順番である（図3）。遺構面は1面で、標高約36.5mである。標高は北側に向かって若干下がる。

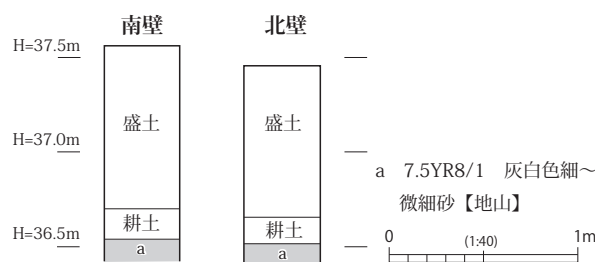


図3 基本土層柱状図 1：40

4. 発掘調査結果

確認調査 E8 - 4 - 59 では、7 世紀後半～8 世紀初頭の 1 須恵器杯 B、7 世紀代と推定される 2 須恵器甕が出土した (図 4・14・15)。重機掘削中に出土したため、出土位置は明確ではないが、年代を考える参考となるため図示した。

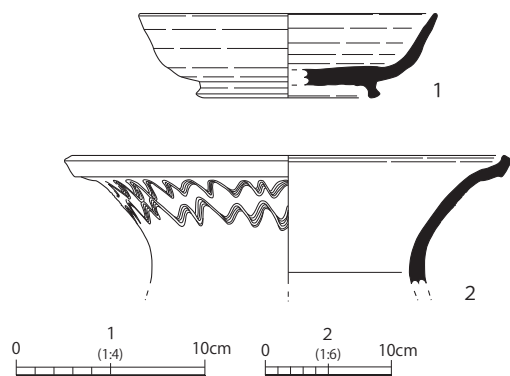


図 4 確認調査 E8 - 4 - 59 出土遺物 1 : 4・6

本発掘調査では溝 1 条、井戸 1 基、土坑 5 基、ピット 9 基を確認した (図 5)。以下、主要遺構を報告する。
1 溝 検出長 0.9 m、幅 0.45 m、深さ 0.2 m をはかる。遺物は土師器甕と黒色土器等の破片が出土した。
7 井戸 推定直径約 4～5 m をはかる。工事によって損壊を受ける深度まで掘削し、完掘は行っていない。確認した範囲では、井戸枠は検出できなかった。井戸

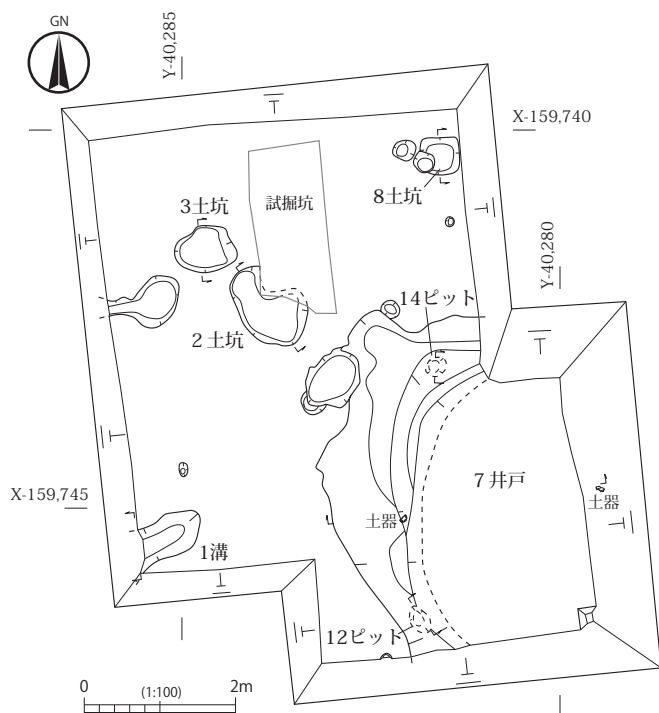


図 5 遺構平面図 1 : 100

の肩部に、直径 0.25～0.35 m のピット 2 基が存在するが、掘削中にピットを認識したため、7 井戸との前後関係は不明確である。14 ピットは深さ 0.08 m、12 ピットは深さ 0.25 m をはかる。14 ピットがやや浅い

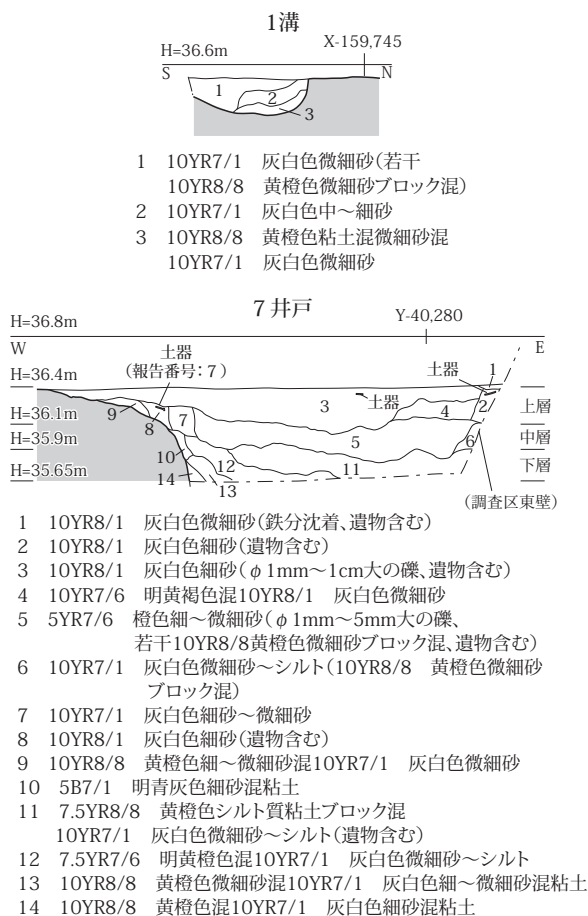
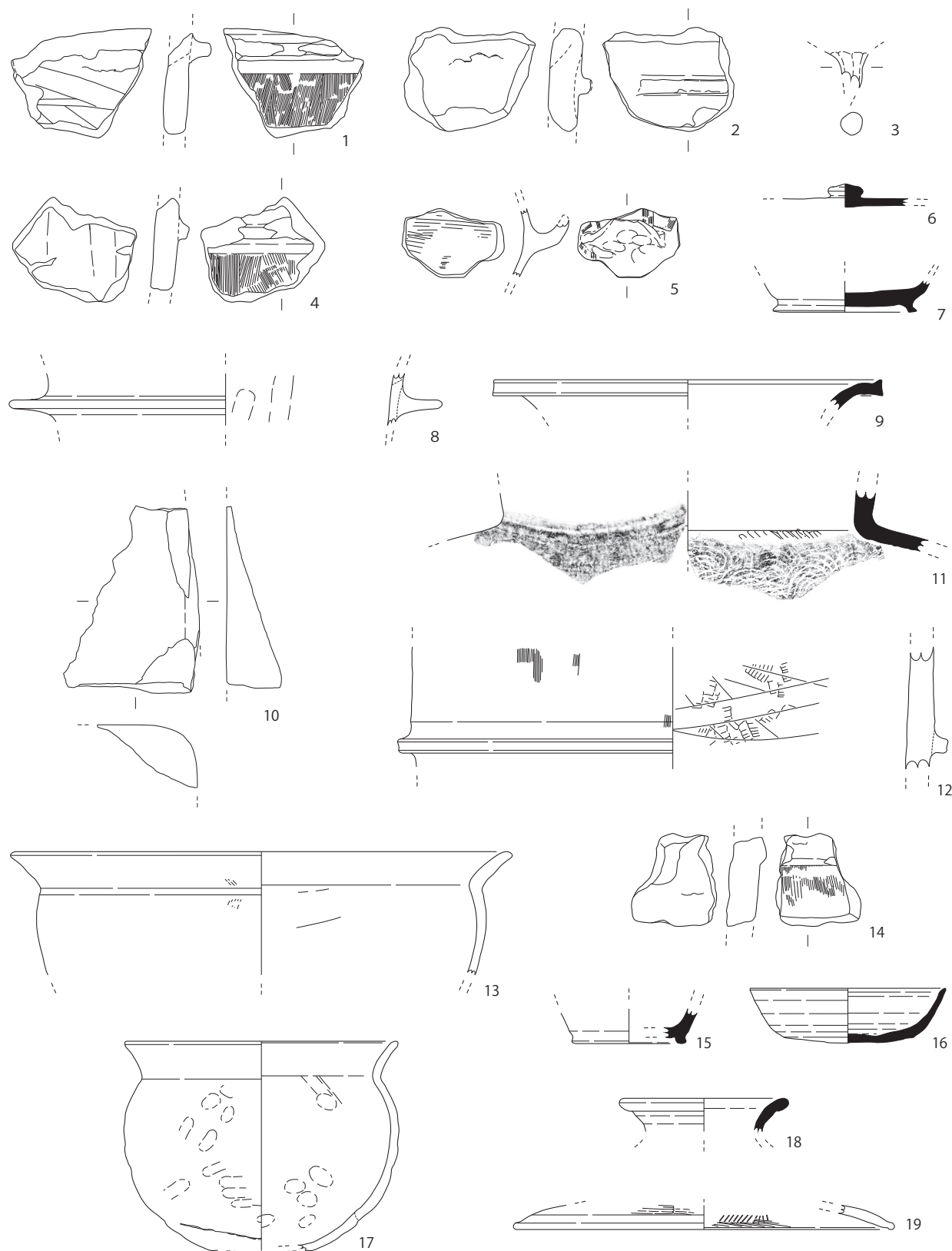


図 6 遺構断面図 1 : 40・60

が、覆屋を構成する柱穴の可能性はある。

出土遺物は、標高で上層・中層・下層に分けて取り上げた。上層に遺物が多く含まれており、井戸廃絶時に廃棄されている。1・2・4・12・14 は円筒埴輪で、

外面調整が確認できるものはタテハケである。突帯の形状もみると、5世紀後半～6世紀代と推定される。3は土師器盤の脚部と思われる。5は土師器鍋の把手である。6は須恵器の杯蓋である。7は須恵器杯



1～13：7井戸上層（H=36.4～36.1m）、14～17：7井戸中層（H=36.1～35.9m）、18～19：7井戸下層（H=35.9～35.65m）

図7 7井戸出土遺物 1：4

Bである。8は土師器羽釜である。9は須恵器の壺か瓶である。10は石製品の用途不明品で、砂岩製である。上面と側面を加工していると思われるため、図示した。柱穴の礎板の可能性もある。11は須恵器甕である。13は土師器鍋である。15は須恵器の壺か瓶である。16は須恵器杯Aである。17は土師器甕である。18は須恵器壺の口縁部である。19は土師器杯蓋である。

このうち、7・16の須恵器杯は8世紀前半に比定される。土師器は17の甕が8世紀前半～中頃、8の羽釜と13の鍋は8世紀代と推定される。本遺構の埋没時期は8世紀代と考えられる。

2土坑 長軸1.2m、短軸0.85m、深さ0.06mをはかる。遺物は土師器と須恵器の破片が出土した。

3土坑 長軸0.75m、短軸0.6m、深さ0.08mをはかる。遺物は土師器の破片が出土した。

8土坑 一辺0.5m、深さ0.25mをはかる。遺物は出土しなかった。

5. 総括

本調査では、古墳時代の遺物と奈良時代の遺構・遺物を確認した。

古墳時代は、中期後半～後期の円筒埴輪が出土したため、周辺に古墳が存在した可能性がある。

奈良時代については直径約4～5mの7井戸を検出した。上層から出土した土器が多く、埋め戻し最終段階での不用品廃棄が想定される。

本調査地南側の本発掘調査E8-4-37では、7世紀後半～8世紀前半の大型掘立柱建物群や直径約4mの大型井戸が確認されている（図8）。同じ時期であるため、一連の遺構が本調査地にも所在しているといえる。本調査結果の詳細な検討は、現時点では整理作業が終了していないE8-4-37の調査結果と合わせて、改めて行いたい。



図8 E8-4-37 全景（北から）



図9 調査区全景（北西から）



図 10 調査区南壁（北から）



図 12 7井戸全景（東から）



図 11 1 溝断面（東から）



図 13 8土坑断面（西から）

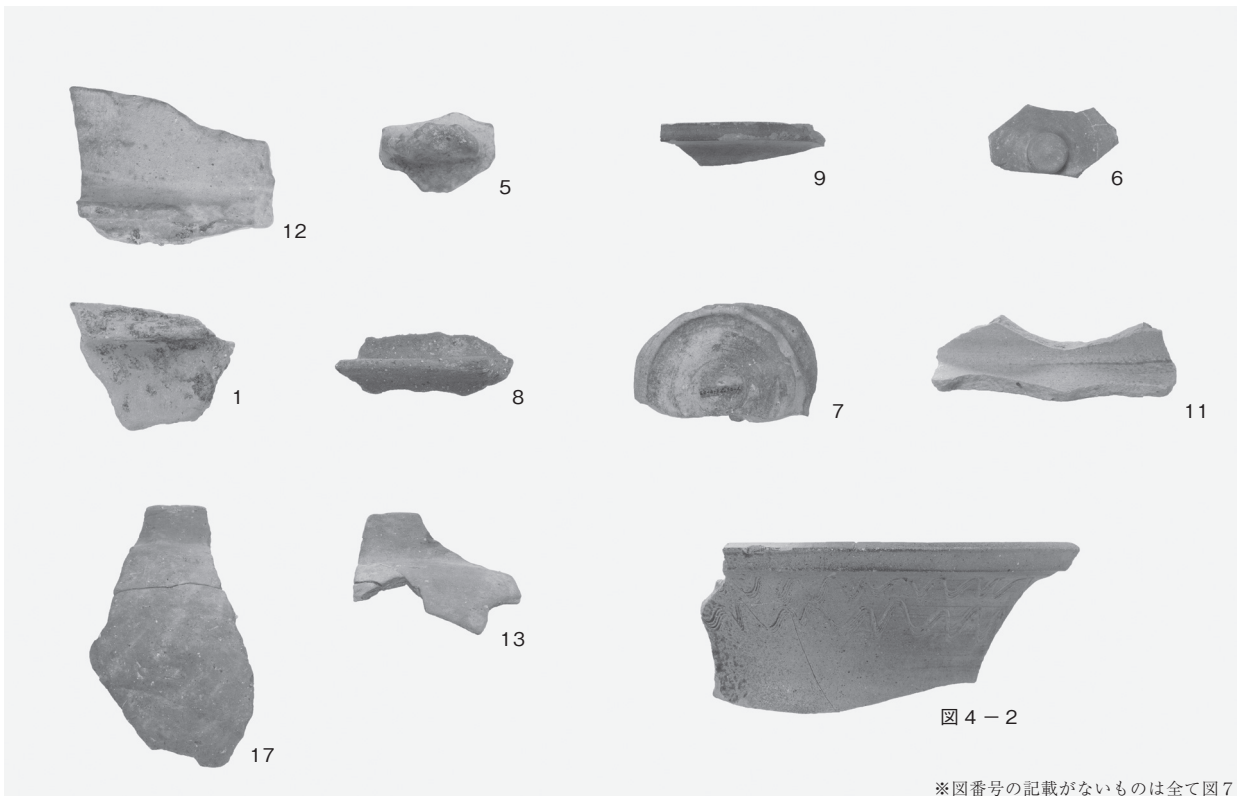


図 14 確認調査 E8 - 4 - 59、7井戸出土遺物



図 15 確認調査 E8-4-59 出土須恵器杯



図 16 7 井戸出土須恵器杯

報 告 書 抄 録

ふりがな	たんなんいせき								
書 名	丹南遺跡								
副書名	松原市丹南 4 丁目地内における店舗建設工事に伴う丹南遺跡E8－ 4 －62発掘調査報告書								
シリーズ名	松原市文化財報告								
シリーズ番号	第24冊								
編著者名	桎木 規秀								
編集機関	松原市教育委員会								
所 在 地	〒580－8501 大阪府松原市阿保1－1－1 TEL 072－334－1550（代表）								
発行年月日	令和 7 年（2025） 5 月31日								
ふりがな	ふりがな		コード		北 緯	東 経	発掘期間	調査面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地		市町村	遺跡番号					
たんなんいせき 丹南遺跡	おおさか 府 大阪府 まつばらし たんなん 松原市丹南 4 丁目		27217	41	34° 33′ 33″	135° 33′ 40″	20240909 ～ 20240918	31㎡	店 舗 建 設 に 伴 う 記 録 保 存 調 査
収録遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
丹南遺跡	集落・ 官衙	奈良	井戸、土坑、柱 穴、溝		土師器、須恵器、円 筒埴輪、石製品				
要 約	本調査では、主として奈良時代の遺構・遺物を確認した。このうち、推定直径約 4～5 m の大型井戸が注目される。南側隣接地の本発掘調査E8－ 4 －37では、 7 世紀後半～8 世紀前半に比定される在地有力者の屋敷または官衙と考えられる遺構が検出されている。本調査で確認した遺構の時期と整合性があるため、一連の遺構が本調査地まで広がっていると考えられる。								

松原市文化財報告第24冊	【編 集 発 行】松原市教育委員会
丹南遺跡	〒580-8501 大阪府松原市阿保1丁目1番1号
松原市丹南 4 丁目地内における店舗建設工事に伴う	【発 行 日】2025年 5 月31日
丹南遺跡E8-4-62発掘調査報告書	【印 刷】和泉出版印刷株式会社

本書は、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際 ライセンスで提供されています。

